

特集「21世紀に向けてのレジャーの価値」にあたって

学会名を『日本レジャー・レクリエーション学会』に改めたことを契機に、平成5年度の定例月例研究会のテーマを「21世紀に向けてのレジャーの価値」と設定し、ことテーマでの研究交流を年間を通して継続的に実施することで、研究領域の広がりや深まりの追求を試みてみました。本誌27号と次号の29号では、研究会において話題を提供して下さった方々に、当日の議論を踏まえて執筆をお願いし、特集企画といたしました。これは研究会での成果をできるだけ多くの会員の皆様にお伝えし、学会内での議論や研究交流をさらに活発なものにしたいと考えるからであります。会員の皆様の忌憚のないご意見やご感想をお寄せいただき、今後の研究交流の促進と研究誌の充実を図ってまいりたいと考えております。

さて、現時点において「21世紀に向けてのレジャーの価値」を年間テーマとして設定いたしましたのは、近年、社会の価値観が変質しつつあり、人々のレジャーやレクリエーション活動に対する志向もまた大きく変化しようとしていると考えるからであります。したがって、レジャー・レクリエーションに関する教育や研究の方向、環境整備の在り方、産業や行政面での取り組みなど、様々な側面で再編が大きな課題となってきました。

例えば、今日におけるレジャー・レクリエーション教育・研究の方向の一つは体育系大学のレクリエーション学をベースにしてきたといってもよいかと思えます。しかし、この体育系大学も、時代の環境変化に適應するために、レクリエーションを中心とした教育・研究からその領域をレジャー教育・研究まで広げて、リフォーミング、イノベーションをはかってきています。また、レジャー・レクリエーション活動のための環境整備の在り方も、今日までの都市公園や自然公園を中心とした計画・設計論から、レジャー・レクリエーションの志向の変化や活動の本質を踏まえながら、新たなパラダイムを模索しつつあります。一方、行政や産業面では自由時間の増大を背景とした「生活重視」のライフスタイルへの対応が重要な課題となってきました。

そこで、各会の研究プログラムとして、過去3年間の月例研究会での議論や、研究者の所属領域で直面する課題などを考慮にいれ、「教育」「環境」「産業」「行政」の4分野と、4分野に共通する「レジャーの価値とライフスタイル」分野の5分野を、とりあえず設定してみました。各会の研究プログラムは、この5分野との関連でつくってあります。各々の分野での現状や直面している課題について議論・検討を深め、将来、分科会として発展していく足がかりとなればと考えております。

特集の構成としては以下の通りです。

- [27号] ①現代における余暇の意義……………松田義幸
 ②レジャー・レクリエーション教育の国際的動向……………原田宗彦
 ③日常的レジャー・レクリエーション環境の課題……………下村彰男
- [29号] ④農村リゾートについて(身近な非日常空間)……………毛塚 宏
 ⑤レジャー産業の枠組みに関する考察……………粟田房徳
 ⑥レジャー産業の動向……………嵯峨 寿

<資料>経済企画庁・余暇生活文化関係資料

本特集を一つの素材として、会員の皆様の活発な研究交流を期待しております。

(編集・研究会委員会)